

夢に向かって

英語で視野を広げて、自分軸がある人に——

堀江 ^{さわ} 咲羽 さん (県北中3年)

第33回



私の将来の夢は、具体的な職業はまだ決まっていませんが、英語を話せるようになりたいです。英語を話せば、外国人とコミュニケーションが取れ、さまざまな文化や価値観に触れることができ、自分の視野が広がると感じています。また、英語を使った職業にも興味があり、将来の選択肢を広げるためにも英語を身につけたいと思っています。そして、いつか外国に行き、現地の文化や人々と直接交流して、さらに新たな発見をしたいと思っています。

中学では、吹奏楽部と特設駅伝部に所属し活動しました。吹奏楽部では部長として、部員が目標に向かって行動できる

よう、具体的な指示や目標を伝えることを心がけました。駅伝では、自分のタイムではなく、チームが良い成績を出すためにどうすればいいのかを常に考えながら取り組みました。この2つの部活動をとおして、チームのために、誰かのために行動することの大切さを学んだとともに、自分自身の成長につながることを実感しました。

私は、周りの意見に流されやすい性格で、直したい部分でもあるので、他人軸ではなく、自分軸で物事を考えて行動できる大人になることも私の目標です。そのためには、いろいろな経験や異なる考え方、価値観に触れることが大切だと思っています。自分軸を大切にしながら、これからも成長していきたいです。

昔、遠くへ旅する人たちが歩いた道は、山の上にあったということ。上街道といい、阿津賀志山のかげから小坂峠、半田山の上かあら茂庭へ、そして吾妻安達太良の中腹を通って白河に抜けたといひます。この山道にはお決まりの山賊がいて、人々を襲っては金品を奪ったり、殺したりしていたのです。

ある時、都に金の延べ棒を運ぶ豪商の一行がこの辺りに差しかけたとき、行く手に山賊どもが待ち構えているという知らせが届きました。すわ一大事、豪商たちは、とつさに半田山のかげの「日本ぶな」という所に金の延べ棒を埋め、「三つ葉うつぎ」という木を目印に植えて、「朝日さす夕日輝く日本ぶな 沖前の里見ゆる所に」という歌を作り、難を逃れたのでした。しかし、その後その膨大な金の延べ棒は掘り返されず、そのまま「日本ぶな」のどこかに、今でも眠っているということです。



【なぞうたに金を埋めたと半田山】

国見の民話
かるた

【第二十一回】
半田山の金のはなし